

2017年7月4日

報道関係者各位

慶應義塾大学病院

## 世界で初めて、十二指腸癌の術後再発に対する 体外切除・自家小腸移植に成功

このたび、慶應義塾大学医学部外科学（一般・消化器）教室の北川雄光教授、日比泰造専任講師らは、コロンビア大学医学部外科学の加藤友朗教授と共に、慶應義塾大学病院において、今年2月、これまで世界での報告例がない Peutz-Jeghers（ポイツ・イエーガー）症候群に起因した十二指腸癌の切除後再発（患者は38歳男性）に対する体外切除・自家移植に成功しました。

今回の術式は、重要血管の再建を伴う複雑な手術手技を必要とすることから、再発病変に適応されるのは極めてまれです。今後、症例ごとに極めて慎重に手術適応を検討する必要があるものの、通常の術式では切除困難もしくは切除不能と考えられる病変に対する新たな手術戦略になると考えられます。

### 1. 背景と概要

今回の手術を受けた患者は、生後半年で Peutz-Jeghers（ポイツ・イエーガー）症候群と診断されました。この疾患は皮膚粘膜の色素沈着と消化管に多発する過誤腫性ポリポシスを特徴とし、がんが高率に見られます。患者はポリープに伴う腸重積と巨大ポリープに対し、幼少時より3回の開腹手術を受けています。

4回目の手術として、定期検診で見つかった十二指腸の2つの腺癌病変に対し、膵臓の頭部は温存したままで、十二指腸をほぼ全て切除しています（膵頭温存十二指腸亜全摘術）。

術後2年5ヶ月が経過したところで上腸間膜動脈根部を全周性に取り巻くように発育し、血管浸潤を来した再発病変を認め、以降は化学療法を行っていました。再発指摘後1年9ヶ月（初回手術後から4年2ヶ月）が経過し、病変の明らかな増大がなく、他臓器・リンパ節転移や腹膜播種の所見を認めないことから、唯一の治癒可能性のある治療方法として患者およびその家族から切除の強い希望がありました。

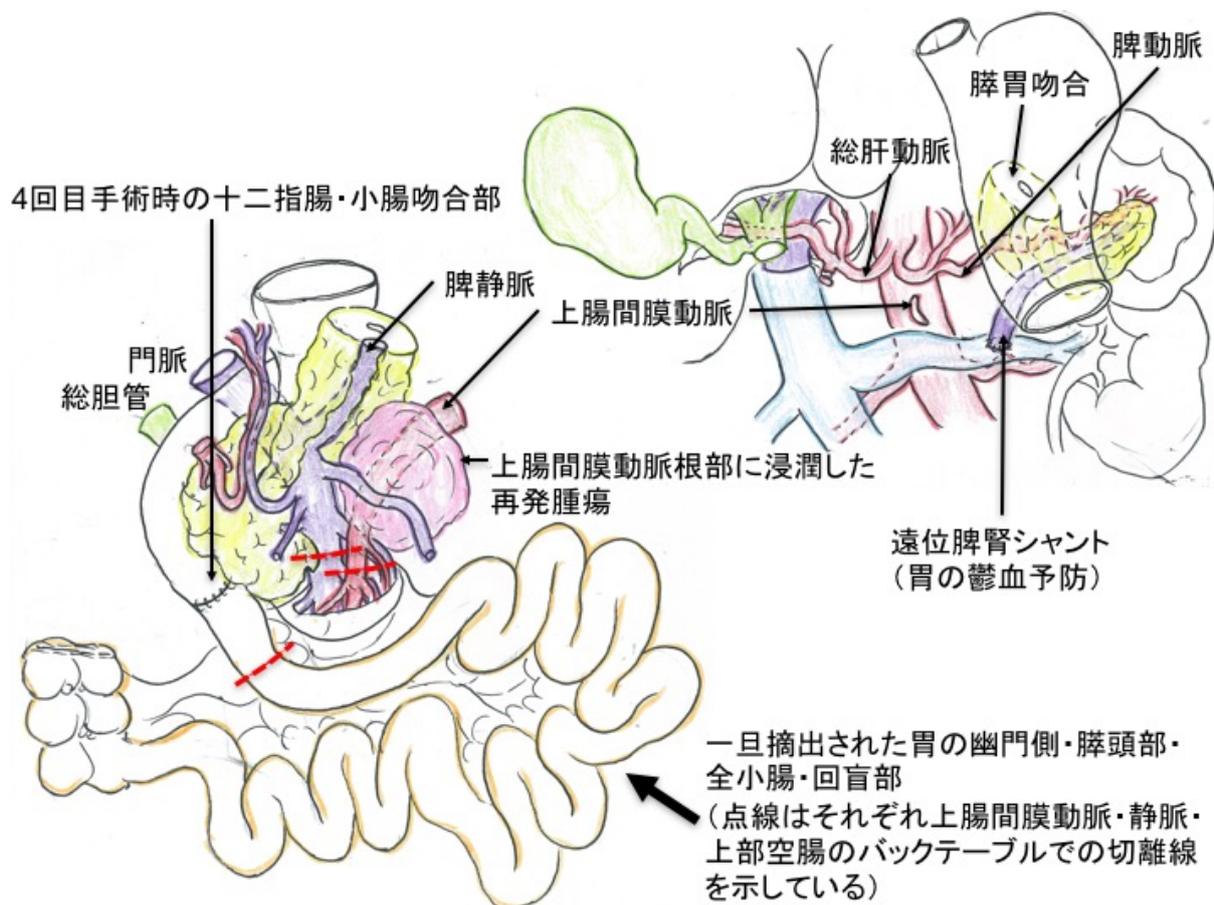
このリンパ節再発について、体外切除・自家移植の世界的第一人者であるコロンビア大学の加藤教授のアドバイスをもとに、外科学（一般・消化器）の肝胆膵・移植班（班長：篠田昌宏准教授）、血管班（班長：尾原秀明准教授）、内科（消化器）の腫瘍班（班長：高石官均准教授）を中心に、関連各科で慎重に複数回の協議を重ね、総合的に手術の意義があると

の結論に達しました。

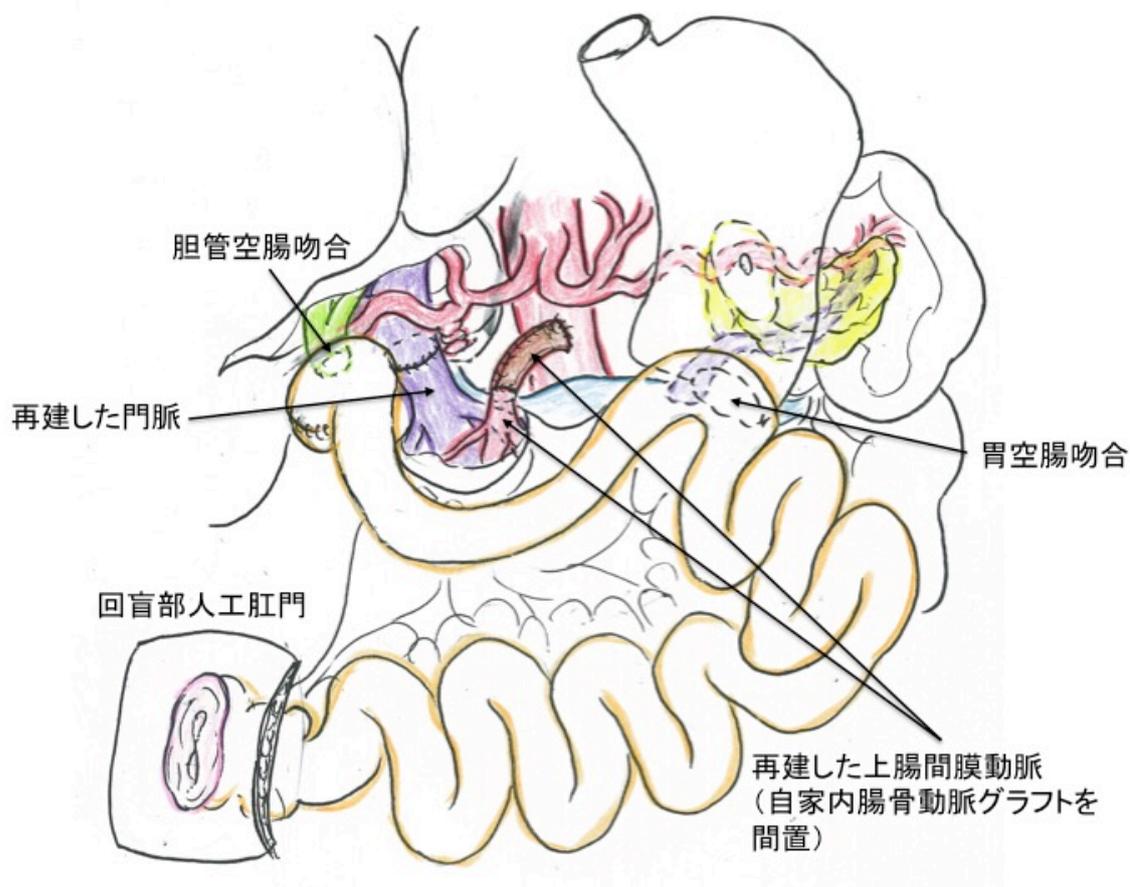
手術（図：手術シエーマ）ではまず周囲の臓器と重要血管に浸潤をきたした再発腫瘍を、健全な小腸から回盲部（大腸の始まり）までを含めて一塊に切除しました。その後、腫瘍浸潤がない健全な小腸と、再発腫瘍が浸潤を来たしている部分を切離（図の赤線）して病変部位を体外で切除しました。同時進行で、体内では、脾胃吻合と遠位脾腎静脈吻合（シャント）を行っています。その後に、健全な小腸から回盲部のみを腹腔内に戻し、動脈と門脈を吻合して腸管血流を再開させました。続けて、胆汁と食物の通過路を再建しています。最後に回盲部で人工肛門を造設しました。

（図：手術シエーマ）

【切除後】



## 【再建終了後】



最終病理組織診断では剥離面と切除断端に腫瘍細胞の露出はなく、完全治癒切除を達成しています。手術後は膵液漏と胃内容排泄遅延を認めたものの、重大な合併症なく経過し、患者は術前とほぼ同様の日常生活動作を取り戻し、すでに退院しています。

## 2. 今回の手術の意義、今後の展開

腫瘍が生命維持に不可欠な上腸間膜動脈あるいは腹腔動脈に浸潤し、通常の手技では切除不能な症例に対しての、小腸を含む腹部臓器の体外切除・自家移植は1996年に初めて報告されて以来、これまで文献上で数十例を確認するのみです。腫瘍が浸潤を来たした血管ごと一塊にして切除することで、確実な治癒切除が得られる点が体外切除の最大の利点として挙げられています。しかしながら、一般的に再発がんに対する切除適応は、生命予後の延長につながるか否かという腫瘍学的観点、ならびに初回手術後に生じる腹腔内の癒着や臓器の解剖学的位置と血行動態の変化などの技術的観点から、極めて限定的です。このため再発がんに対し体外切除・自家移植が適用された例はほとんどなく、Peutz-Jeghers (ポイツ・イエーガー) 症候群に合併した十二指腸癌の再発に対しては今回が世界で初めての実施例となります。

腫瘍学的観点からは、今後の厳重な経過観察を待たねばなりません。本症例のように複数回の開腹歴を有する再発がんであっても、今回の術式を用いることで、病変の治癒切除が安全に施行し得た点に大きな意義があります。今後も患者の病態に応じて、慎重にこの手術の適応を検討していく予定です。

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、科学記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ、各社科学部等に送信しております。

**【本発表資料のお問い合わせ先】**

慶應義塾大学医学部外科学（一般・消化器）  
教室

専任講師 日比 泰造（ひび たいぞう）

TEL : 03-5363-3802 FAX : 03-3355-4707

E-mail: taizohibi@keio.jp

<http://www.keio-hpbts.jp/index.html>

**【本リリースの発信元】**

慶應義塾大学

信濃町キャンパス総務課：鈴木・山崎

〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

TEL : 03-5363-3611 FAX : 03-5363-3612

E-mail : med-koho@adst.keio.ac.jp

<http://www.med.keio.ac.jp/>

※本リリースのカラー版をご希望の方は上記までご連絡ください。